

の事なれども、玉海に筒塞の事あり、つれづれ草にも、塞を取ればと云ひ、大鏡に重六の名あるをもつて考るに、漢には攤を雙六の異名のごとく稱しけるなるべし、源順の頃は雙六と攤とは別也。

〔五雜組人〕擲錢雖小戲、然劉寄奴能喝子成盧、宋慈聖側立不仆、光獻盤旋三日、似皆有鬼神使之者、若秋武襄平廣南手擲百錢、盡紅、雖云譎術、乃更勝真、

○按ズルニ、攤ハ他干切、又ハ奴案切ニテ、攤錢即チ意錢ノ事ナルベケレド、我國ニテダト云フハ、攤ノ音諾何切ニ混ジ、且ツ其音ニ近キ奴禾切ナル按ニ混ジテ、雙六ノ事ト爲シ、ナルベシ、按ハ又接ニ作リテ、兩手ニテ采ヲ摩切スルヲ云フ、

攤例

〔新儀式四臨時上〕天皇還御事

御料并分賜男女房、二三巡後於御前有擲采之戲事、○中 第三日後院又儲饗等、王卿侍臣參上御前

翫、與盡命酌、○中

御庚申事

王卿依召候御前御厨子所供菓子干物御酒終夜之間有打捶之事、或有賦詩獻歌之事、

〔侍中群要八〕御庚申

終夜之間有擲采戲、

〔空穂物語あて宮〕二月中の十日、年の始のかうしん出來るに、○中 内にも宮殿上人あつまりて、だ

うち遊びするに、うへいと近き御つばねなれば宮わたり給へるに、あて宮おきたまへり、

〔扶桑略記村上十六〕康保三年十一月卅日庚申、今夜召殿上侍臣於御前聊打攤給酒、及曉令詠和歌、以

納殿絹給侍臣、

〔小右記〕永觀三年○寛和元年 正月十五日庚申、秉燭參内、有御庚申事、於石灰壇有擲采之興、内藏寮獻碁